

令和4年度

教職課程
自己点検評価報告書

岡崎女子大学

令和5年3月

岡崎女子大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・子ども教育学部子ども教育学科

大学としての全体評価

岡崎女子大学は、建学の精神「自己実現と社会貢献」を礎に、「自分の頭で考え、自分の心で感じ、自分の言葉や行動で表現する」という自律的な学習態度を通して学生が現代に生きる女性としての知恵と知識を獲得し、人間的な成長と目標の実現を目指している。本学には、子ども教育学部子ども教育学科があり、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状が取得できる。

令和4年度より岡崎女子大学教職課程委員会を設置し、教学部長、L0、学部長、学科長、学科担当教員を中心に構成された委員により、教職課程の最新の動向や研修の共有を行いながら、教職課程の質の保証、向上に取り組んできた。教職課程委員会で審議された内容は子ども教育学科の学科会議で報告され、育成を目指す教師（保育者）像の点検を行うなど、教職課程委員会と学科で連携しながら教職課程を運営している。

本学における教員養成は、カリキュラムや授業担当者、教育実習、免許取得の手続き等の具体的な指導に関しては教務委員会が、課外活動や学外ボランティアに関しては学生委員会が、就職指導やキャリア支援に関してはキャリア支援委員会が組織され、各学科より委員が選出されているほか、それぞれ教務課、学生支援課、キャリア支援課の職員が事務に当たり、教職協働しながら学生支援にあたっている。

岡崎女子大学
学長 林 陽子

目次

I	教職課程の現況及び特色	・・・・・・・・	1
II	基準領域ごとの自己点検評価		
	基準領域 1	・・・・・・・・	3
	基準領域 2	・・・・・・・・	6
	基準領域 3	・・・・・・・・	9
III	総合評価	・・・・・・・・	12
IV	教職課程自己点検評価報告書作成のプロセス	・・・・・・・・	14
V	現況基礎データ一覧	・・・・・・・・	15

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：岡崎女子大学子ども教育学部

(2) 所在地：愛知県岡崎市中町1-8-4

(3) 学生数及び教員数（令和4年5月1日現在）

学生数：教職課程履修 285 名／学部全体 285 名

教員数：教職課程科目（教職・教科とも）担当 14 名／学部全体 1 名

2 特色

岡崎女子大学（以下、本学）は、平成 25（2013）年 4 月、建学の精神「自己実現と社会貢献」のもと、女性の生き方への真摯な探究を通じた人格形成を目指すとともに、専門の学術を研究教授することにより、社会の発展に貢献し得る女性職業人を育成することを目的として開学した教育・保育系の単科大学である。同年 4 月、幼稚園教諭・保育士の養成を行う子ども教育学部子ども教育学科を設置し、平成 28（2016）年度には小学校教員免許教職課程の認可を受け、それ以来、幼稚園だけでなく、小学校の教員養成も行っている。

本学の特色については、「大学が養成する人材像」として、I 深い人間理解と共感力を備えた品格ある女性の育成（人間力）、II 高い使命感と倫理観を持つ専門的職業人の育成（専門力）、III 知的探究心と実践力を持ち、社会を支える指導的人材の育成（課題探究力・地域貢献力）と定め、明示している。

本学は子ども教育学部子ども教育学科のみを擁する 1 学部 1 学科の単科大学であり、子ども教育学科は「教員養成」を重要な教育上の目的として設置されたものであることから、先に述べた本学の特色は、本学の教育課程の特色とも重なるものである。

本学の教員養成の理念は、建学の精神のもと、現代人としての教養と教育分野の豊かな専門知識・技能をもち、子どもや保護者への共感力をもつと共に、高い使命感と倫理観に基づいて現代の教育現場のニーズに応えていける小学校教諭・幼稚園教諭を養成することである。本学子ども教育学部子ども教育学科は「教員養成」を重要な教育上の目的として設置されたものであることから、先に述べた教員養成の理念は、本学の教育理念とも重なるものとなる。

その理念をもとに定めた全学アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは以下の通りであり、それは学部及び学科のポリシーとも重なるものである。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針、以下 AP）

AP I：現代人に求められる教養の基礎やコミュニケーション基礎力を持っている。

AP II：専門の知識・技能を修得するための基礎学力や、教諭・保育者になるための意欲・関心・適性を有している。

AP III：自律的な学習態度や、課題に対する思考力・判断力への基盤を持っている。

AP IV：教育・保育の実践から学ぶ姿勢と地域貢献への意欲を持っている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針、以下 CP）

CP I：教育課程に教養科目と専門科目を置く。

CP II：基礎的・一般的学習から発展的・研究的学習へ、という順序性を持った科目配置とする。

CPⅢ：教室内での学びと教育・保育現場での実践的な学びを組み合わせた教育を行う。

CPⅣ：学生の学びを引き出す、アクティブラーニングを行う。

CPⅤ：シラバスにおいて、挙証可能な学習成果と評価方法を示す。

○ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針、以下 DP）

DPⅠ：現代人としての教養と豊かなコミュニケーション能力を獲得している。

DPⅡ：専門職としての確かな知識・技能を持ち、教育・保育現場の現代的ニーズに対応しうる教諭・保育者の資質を獲得している。

DPⅢ：自律的学習態度・課題探究能力を修得している。

DPⅣ：教育・保育分野の実践知を修得し、社会や地域への貢献力を獲得している。

以上の方針に沿って、入学者を受け入れ、教職課程を編成して教育を行い、学位を授与している。なお、CPⅢについては、本学独自の授業科目として、「地域貢献とボランティア」や「長期フィールド実習」、「インクルーシブ教育実践演習」等が設定されており、それは DPⅣにつながり、本学の教職課程の特色ともなっている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学教職課程の目的と目標は、学部の教育目的・目標とほぼ重なっている。その学部の教育目的は、先に述べた本学の教員養成の理念と重なり学則に明記されている。また教育目標は、以下の通りである。

- 1) 現代人としての教養と豊かなコミュニケーション能力の育成（人間力）
- 2) 専門職としての確かな知識と技能を持ち、教育・保育現場の現代的ニーズに対応しうる小学校教諭・幼稚園教諭・保育教諭・保育士の養成（専門力）
- 3) 自律的学習態度・課題探究能力の育成（課題探究能力）
- 4) 教育・保育分野における実践知と地域貢献力の育成（実践力・地域貢献力）

それは先にあげた、DP 及び CP 等を踏まえて設定し、育成を目指す人材像とともに「履修要項」に明記して教職員・学生に示すとともに、Web サイトにて公開し、学内外への周知を図っている。また、各教員は DP 及び CP を踏まえて「授業の目的」「授業の到達目標」をシラバスに明示している。

学修成果の可視化及び点検評価は、GPA、免許・資格の取得状況、就職率、履修カルテ、卒業研究、ジェネリックスキルテスト、卒業生へのアンケート、卒業生の就職先の所属長へのアンケートを用いて行っている。

〔長所・特色〕

本学子ども教育学部は、「教員養成」を重要な教育上の目的として設置されたものであることから、子ども教育学科では、小学校教諭・幼稚園教諭等の養成のための職業教育を行うための教員が多く配置されている。各教員はこのような職業人に必要な知識技能を育むための授業を実施している。

また本学では、卒業生の就職先を教員が訪問して、卒業生へのアンケート及び卒業生の就職先の所属長へのアンケート調査を実施している。その肯定回答率は卒業生対象のものでは 8 割以上、所属長対象のものでは 7 割以上といずれも高く、それは学修成果の可視化及び点検評価につながる本学の独自の取り組みであり特色となっている。

〔取り組み上の課題〕

今後の課題は、DP 及び CP 等とそれらを踏まえた教育目的・教育目標の学生へのさらなる周知と理解、また学修成果のそれぞれの項目の評価ポイントを向上させることである。

<根拠となる資料・データ>

- ・資料 1-1-1：岡崎女子大学 令和 4 年度 履修要項
- ・資料 1-1-2：岡崎女子大学 令和 4 年度 シラバス
- ・資料 1-1-3：岡崎女子大学 令和 4 年度 学生 GPA 一覧表、GPA 分布図
- ・資料 1-1-4：岡崎女子大学 令和 3 年度 教員免許・保育士資格取得状況
- ・資料 1-1-5：岡崎女子大学 令和 3 年度 就職状況（就職率）

- ・資料1-1-6：岡崎女子大学 令和3年度 学修の記録
- ・資料1-1-7：岡崎女子大学 令和3年度「卒業研究」成績
- ・資料1-1-8：岡崎女子大学 令和3年度 卒業生へのアンケート調査
- ・資料1-1-9：岡崎女子大学 令和3年度 卒業生の就職先の所属長へのアンケート調査

基準項目1-2 教職課程に関わる組織的工夫

〔現状説明〕

小学校教諭・幼稚園教諭等養成のための職業教育を行い、専門分野に関する学生の知識・技能を深め、研究活動を支援するに相応しい教員の配置をしている。主に実技・実習科目等を担当する実務家教員と研究者教員のバランスにも配慮している。令和3(2021)年度は、教職課程を担当する14人のうち小学校教諭免許一種においては10人、幼稚園教諭免許一種においては8人の教員を配置している。教職課程を含む教育課程全般の管理・運営については教員と事務職員によって構成される教務委員会、教務チームの定例会議が毎月行われ検討している。また実習委員会では教育実習及び介護等体験の実施等について検討している。さらに教育実習及び介護等体験等の実習に当たっては教務課内に配置した実習支援室と連携して学外関係機関との連絡調整、実習に向けたガイダンス、実習中の学生対応、実習の成績評価について適切に対応している。

大学全体の自己点検・評価は自己点検・評価委員会が担っていたが、教職課程に特化したものではなかった。そこで令和4(2022)年度より、教職課程に特化した自己点検・評価や実施について協議や検討を行う組織として、教職課程委員会を設置した。教職課程委員会は学部長、学科長、教学部長、教職科目担当教員、事務職員で構成されている。

教育内容・方法の向上のためのFD研修会は令和3(2021)年度は3回実施され、研修内容はWebClassの活用方法や教員の研究成果の報告といった教職課程の質的向上につながるものであった。またSD研修会、人権問題研修会等の学内研修会も実施され、全学的な資質向上を行っている。さらに教員による授業参観、「学生による授業アンケート」を実施し、その結果を授業改善に生かすとともに報告書にまとめFD委員会に提出している。

教職課程に関する情報については、授業内容を確認できるシラバスや大学の教育実習の日程等がわかる年間授業日程、小学校教員の就職状況等をWebサイトにて公開している。

施設・設備については、教職支援室に教職課程の学びや教員採用試験対策関係の資料を配備し、資料の閲覧、自修等ができるようになっている。

〔長所・特色〕

本学は小学校教諭・幼稚園教諭等の人材育成を目指す大学であり、実習科目群、専門演習科目群や研究科目群に関しては、原則として全てを専任教員が担当している。こういったことから教職等の実習について教員は十分に理解している。実習科目を担当する教員の負担が増える傾向があるが、実習担当の事務職員を配置し、実習巡回等も原則として学科教員全員で分担する等、実習科目を担当する教員と他科目担当教員とのバランスを整え、協働体制を構築している。

小学校教諭・幼稚園教諭等を目指す学生が多い本学では、学生指導を充実させるためにクラス制を導入している。1・2年次は各クラス1人のクラス指導主任を置いてクラ

ス単位の指導や個別面談を行っている。3年次からは専門ゼミナール担当教員が個別指導を行う体制を取っている。

また本学は単科大学であることからSD研修会・FD研修会等の研修会で取り上げられるテーマも小学校教諭・幼稚園教諭等養成に関わることが多く、教職員の質的向上につながるものとなっている。さらに「学生による授業アンケート」を基に、各教員が「授業に関する自己点検報告書」を作成し、授業内容の向上を図っている。

パソコン教室や貸出用PCといった施設・設備のハード面の整備だけでなく、情報機器を用いる授業を円滑に運用できるように情報メディアセンター職員が授業において人的な補助を行う等ソフト面も整備している。またピアノ練習室は個人でいつでも利用できるようにしている。さらに教職支援室では、学生からの採用試験や学修等の相談について、教員による指導が受けられる体制がとられている。

[取り組み上の課題]

令和4（2022）年度より教職課程の自己点検・評価等について協議、検討を行う組織として、教職課程委員会を設置した。教職課程委員会は設置後間もないため、学部、他の委員会等との役割分担を今後、明確にしていかなければならない。

<根拠となる資料・データ>

- ・資料1-2-1：岡崎女子大学 教職課程委員会規程
- ・資料1-2-2：岡崎女子大学 令和3年度 FD 委員会議事録
- ・資料1-2-3：岡崎女子大学 令和3年度 SD 委員会議事録
- ・資料1-2-4：岡崎女子大学 令和3年度 学生による授業アンケート
- ・資料1-2-5：岡崎女子大学 令和4年度岡崎女子大学自己点検報告書

https://www.okazaki.ac.jp/official/wp-content/themes/okazaki_official_tm/assets/img/guide/pdf/release-univ/r04jikotaenkenhyoka_owu.pdf

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

教職を担うべき適切な人材（学生）の確保に向け、本学が定めたAPは、「入学試験要項」の冒頭に記載されたり、本学受験生用のWebサイトにも掲示されたりしている。このように、本学の教職課程で学んでほしい学生像は受験生に明示されている。

入学者の選考（入学試験）については、多様な人材の中から、APに示される資質・能力を有する入学者を選抜するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、社会人入試等、様々な形態の入試が行われている。中でも総合型選抜自己アピール入試については、アドミッション・オフィス（AO）が中心となって、APに示される資質・能力を有する入学者を選抜している。学校推薦型選抜指定校推薦入試についても、APに基づき、学校長から推薦された本学で学ぶ意欲の高い入学者を選抜・確保している。

教職課程を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始するための基準については、入学前は「入学試験要項」に、入学後は「履修要項」にAPを示すことで、本学が求める教職課程を担うのにふさわしい学生像を理解することができる。また、入学後のオリエンテーションにおける履修ガイダンス及び「履修要項」に記載されている教育職員免許取得のための要件を確認することによって、履修を開始するための具体的な基準や手続きを理解し、その基準を確認しながら履修を継続させることができる。

〔長所・特色〕

本学受験生用のWebサイトからAPを確認することができるため、受験生は、受験を考える以前から本学が求める教職課程を担うにふさわしい学生像を理解することができる。実際に受験する際には、「入学試験要項」でもAPが示されていることから、本学が養成を目指す小学校教諭・幼稚園教諭になる意欲や資質・能力を有することを受験生自身が自覚した上で受験に臨むことができる。受験生自身が、本学の教職課程で学んでほしい学生像にふさわしいかどうか判断に困る場合は、オープンキャンパスの個別相談や入試に関するガイダンス等で、具体的な学生像を示しながら理解を促したり、不安に応えたりしている。

教職課程を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準となるAPや免許取得のための要件、各実習の参加条件等については、入学年度に各学生に配付される「履修要項」に示されている。この「履修要項」は教員にも配付されるため、学生と教員両者が齟齬を生じることなく、学生の教職課程の履修について開始や継続を行うことができる。

本学の募集定員は100名であるため、入学後は講義科目においても履修生が100名を超えることはない。また、2クラス制を採っているため、演習科目も履修生が50名を上回ることはない。2年生以降は「学校教育コース」「幼児教育・保育コース」に分かれるが、その場合も履修者数の基準を上回ることなく、適切な履修状況が確保されている。加えて、3年次から専門ゼミナールが始まり、少人数で学びを深めることができている。

〔取り組み上の課題〕

今後定員充足を目指すとともに、学生が多様に学び、DPに示される資質・能力を有して卒業できるよう、適切な教職指導が行われることが喫緊の課題である。

<根拠となる資料・データ>

- ・資料2-1-1：岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 2023年度（令和5年度）入学試験要項
- ・資料2-1-2：岡崎女子大学 令和4年度 履修要項
- ・資料2-1-3：岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 受験生サイト
<https://beautiful.okazaki.ac.jp/>

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学のキャリア支援については、主にキャリア支援課が卒業までの就職に関する支援を実施しているが、教職のキャリア支援については、学科とキャリア支援課が連携・協力しながら実施している。また小学校教員の就職については、学校教育コース専門科目担当教員を中心とした教職支援室における支援が行われ、学生が教職に就くことを強くサポートする体制が整えられている。

1年次および2年次はクラス毎に、専任教員がクラス指導主任として配属されている。クラス指導主任は、入学時～2年次修了までの間において学生生活の全般をサポートする役目を担っており、履修の段階から将来の進路に向けての取り組みを支援している。1年次より進路ガイダンスを実施し、将来の教育職への就職希望についてアンケートを実施している。このアンケート結果を参考にしながらクラス指導主任が、2年次からのコースの分属（「学校教育コース」「幼児教育・保育コース」）と進路について指導と助言をおこなっている。学校教育コースでは小学校教諭一種免許状及び幼稚園教諭一種免許状の取得を、幼児教育・保育コースについては幼稚園教諭一種免許状の取得を目指す。

2年次は、両コースの学生を対象に、公務員試験合格支援講座を開講している。この公務員試験合格支援講座では、保育職も含めた広く幼稚園教諭として必要な能力の育成を図り、希望する職に就きやすいような講座を用意している。

3年次より専門ゼミナールの配属が行われるため、学生生活の全般をサポートし特に進路に関する支援と助言を実施する担当としてゼミ担当教員があたる。3年次後期には、進路調査カードを基に、ゼミ担当教員とキャリア支援課が情報共有を図り、教職に就くための指導を行っている。

4年次では、キャリア支援課を中心に就職についての具体的な活動を実施している。幼稚園への就職においては、学生へ常に求人情報を提供し、就職活動をサポートしている。また窓口においては学生の細かい不安に向き合うべくキャリア支援課職員が助言を与えるなどの丁寧な個別指導も行われている。

上記の活動に加えて、小学校教員採用選考試験対策としては、「オータムセミナー」「スプリングセミナー」「採用試験対策講座」「基礎力アップ！月例講座」を開講している。教職教養、一般教養、小学校全科、小論文、面接の実力を高めるとともに数学と英語の学力向上を図っている。

令和4（2022）年3月の卒業者数91名のうち、就職希望者数は86名、学校・保育所・幼稚園・こども園などの専門職への就職者79名であり、91.9%が専門職に就職している。また、教員免許取得人数は小学校教諭一種32名、幼稚園教諭一種88名である。小学校の教員就職者数は、10名であり、うち7名は常勤講師での就職であった。幼稚園での就職者数は12名である。（ただし、幼稚園免許保有者はこども園・保育所に広く就職して

いる)。

[長所・特色]

教職のキャリア支援については、全般的な支援をキャリア支援課が実施している。これは、在学生の教員免許状取得件数のうち、幼稚園教諭一種免許状取得者が令和4(2022)年3月卒業の学生のうち88名と、卒業予定者のほぼすべてが教員免許状を取得し、幼稚園・保育所・こども園に広く就職している。キャリア支援課の提供するキャリアアップに関わる各種講座は、保育職に従事するものにとっては不可欠な生活する際の社会常識も含まれており、教育・保育職で求められる子どもたちの環境に配慮できるよう工夫されている。また、公務員就職を希望する学生の一般教養・保育に必要な技能を高めるための講座・面接が3～4年次にかけて集中的に実施されており、専門職への就職率の高さに良い影響を与えている。

小学校への就職については、2年次からのコース分属に基づき学校教育コースの中で、丁寧な指導が行われている。キャリア支援課の提供する従来からのプログラムに加え、学校教育コース専門科目担当教員を中心とした教職支援室における支援が実施されている。この中では、スプリングセミナー、オータムセミナーが開催され、教員採用試験に向けた各教科の基礎力向上や採用試験に向けての意識づけが行われている。加えて、月毎の「基礎力アップ!月例講座」では学生たちが苦手意識を持ちやすい数学と英語について基礎学力向上を目指し、「採用試験対策講座」では採用試験全体の対策のフォローアップを実施している。これらの丁寧な指導により、小学校課程の教員養成としては後発校ながら、学校教育コースの学生は小学校教員免許を全員が取得し、10名が小学校教員として就職している。

本学の教職課程の取り組みの長所は、学科教員とキャリア支援課による密な連携に基づく丁寧な指導であり、進路調査カードによってそれらを連携させている。また、「リエゾン陽だまりカフェ」などのOG活躍の様子を伝える場を提供するなど、学生たちが具体的に教職のイメージを持つことができるよう、専門職への就職を後押ししている。

[取り組み上の課題]

本学入学時点での教職への就職希望者は非常に多いため、4年間の学生生活の中でこれらの意欲を失わずに教職へ就職できるように、さらにキャリア支援課・クラス指導主任・ゼミ担当教員が連携していくことが求められる。また、小学校教員採用に向けての対策講座についても、教員採用試験の前倒しなどが政策的に検討されていることも鑑み、より一層充実した内容になるように図っていくことが求められる。

<根拠となる資料・データ>

- ・資料2-2-1：岡崎女子大学 令和3年度 キャリア支援委員会 議事録
- ・資料2-2-2：岡崎女子大学 令和3年度 「キャリアアップ講座」開催案内
- ・資料2-2-3：岡崎女子大学 令和3年度 進路希望調査（1年生対象 1回～3回分）
- ・資料2-2-4：岡崎女子大学 令和3年度「公務員セミナー、オータムセミナー、スプリングセミナー、基礎力アップ!月例講座、採用試験対策講座」開催案内
- ・資料2-2-5：岡崎女子大学 令和3年度「リエゾン陽だまりカフェ～卒業生による仕事の魅力説明会～」開催案内

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

先に述べた本学における教員養成の理念及びその教育目標を達成するようカリキュラムが編成されている。また、シラバス作成依頼の際に、教職課程コアカリキュラム等関係資料を配付・周知している。各教科の指導法等において、デジタルテキストを活用した授業展開を進めるとともに、アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫もなされ、課題発見や課題解決等の力量を育成している。「教育の方法及び技術」では、教職課程コアカリキュラムをふまえた授業の実践事例を紹介し実際の授業展開について検討している。Wi-Fi や有線 LAN が整備されている教室を「教育の方法及び技術」や「各教科の指導法」に優先的に配置し、ICT を活用した授業展開の促進をしている。

「学修の記録」は、1・2年次はクラス指導主任が記入の指導をして、不安や悩みをもつ学生に対して面談等による助言を実施している。3・4年次は、「専門ゼミナール」の担当教員が記入の指導をして、きめ細かな個別指導に活用している。

〔長所・特色〕

単位制度の実質化については、シラバスの「授業計画表」に各回授業の内容と予習・復習内容を示し、「自修について（予習・復習・学生へのフィードバックの方法等）」に単位数に応じた予習・復習の時間数と配分を示している。また、履修登録上の上限の単位数の基準を48単位とし、単位制度の実質化を行っている。

履修に関する指導については、毎学年末に行う履修ガイダンスにおいて学生に周知し、学生自身が履修計画を立てるように指導するとともに、教務課窓口において随時相談を受け付けている。履修登録はWebにより行っている。また上限単位数以上に履修登録した学生等修正が必要な学生については、別途呼び出し、履修指導を行っている。

成績評価の方法及び基準の明確化については、全学的な方針のもとで実施し、シラバスに明記している。成績評価の厳格な適用については、基本的に各教員に委ねられている。同一科目を複数の教員で担当する場合は、協議し適正な評価を行っている。GPAについては、履修登録総単位数に不合格科目の単位数を含めて算出しており、学内の各種選考や学修面談等における指標として活用している。また、履修登録済みの科目の取り消しについては、前期後期ともに登録後修正期間を設け、取り消し科目はGPA算出対象とはせず、学生の利益に配慮している。

学生は2年次から「学校教育コース」または「幼児教育・保育コース」に分属することとなる。「学校教育コース」へのコース申請の際、実習参加の際には両コースとも、一定のGPAの基準値を設けている。また教育実習の参加要件となる授業科目のほとんどが教職・保育職の資格取得や専門職への就職に不可欠な科目であることから、コース所属成績要件や実習参加要件が学生の実質的な成績下限の目安としての役割を持っている。

〔取り組み上の課題〕

「学修の記録」による学修状況を把握し、学修成果の点検・評価のために必要な学修状況アンケート、学生による授業アンケート等の質問項目等の改善に努めているものの、さらに多くの評価項目の見直しと評価基準の精緻化やその活用について検討していく必要がある。また、ICT機器の活用及び情報活用能力を育てる教育をさらに充実させるために、今日の学校教育に必要な情報機器を備えた模擬授業室等の整備が求められる。

<根拠となる資料・データ>

- ・資料 3-1-1：岡崎女子大学 令和 4 年度 履修要項
- ・資料 3-1-2：岡崎女子大学 令和 4 年度 シラバス
- ・資料 3-1-3：岡崎女子大学 令和 3 年度 学生 GPA 一覧表、GPA 分布図
- ・資料 3-1-4：岡崎女子大学 令和 3 年度 学修の記録
- ・資料 3-1-5：岡崎女子大学 令和 3 年度 学修状況アンケート
- ・資料 3-1-6：岡崎女子大学 令和 3 年度 学生による授業アンケート

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

[現状説明]

カリキュラム・ポリシーの教育課程実施方針に従い、授業内でのグループ討議、グループ活動や参加型の学外活動等を実施している他、授業での学びを学部全体で取り組む「子ども教育フォーラム」や「丘の上の音楽会」等で学修発表に繋ぐことにより、学生の主体的な学びを引き出す工夫を行っている。学生が自ら深く考え、工夫し、実際に体験して、周囲と協働しつつ問題解決に向かい、学びのプロセスと成果を認識しうる学修の場作りを企図している。

教員一人当たりの学生数比率（ST 比）が低いこともあり、少人数教育による細やかな指導が実現している。特に 3・4 年生が履修する「専門ゼミナールⅠ」から「専門ゼミナールⅣ」では 1 人の教員の担当学生は原則 8 人以下となっており、卒業研究、長期フィールド実習等の研究科目の学修における学生の達成度と満足度の高さに繋がっている。

[長所・特色]

1 年後期授業「地域貢献とボランティア」（教養科目）は、建学の精神「自己実現と社会貢献」に繋がる実践的科目である。学生が地域に出て多様なボランティア体験に取り組むことにより、学内での学びをさらに豊かにすることを目的としている。教職・保育職志望の学生にとっては免許及び資格取得のための実習を行う前に、小学校・幼稚園・認定こども園等で子どもの生活に直接触れることのできる貴重な機会となる。ボランティア科目を通して早期の段階から教育現場等の雰囲気に触れることにより、学生が自己の進路選択へのヒントや見通しを得て、自己の適性に合った教職コースを 2 年次に選択しうる助けとなっている。

2 年次に「幼児教育・保育コース」に進んで、幼稚園教諭取得を目指す学生は、学内認定資格である「インクルーシブ教育士」を取得することが可能である。それには実習も課されており、障害児や外国にルーツを持つ子等に対する学びを深めることもできる。

4 年通年授業「長期フィールド実習」（専門科目）は、多くの実習時間を確保することにより学生の教職経験の質を高めることを目的としている。「長期フィールド実習」は、約 8 か月に及ぶ長期間の現場実習（週 1 回・通年 180 時間）である。実際に小学校・幼稚園・認定こども園等で子どもと関わり、指導者の補助をすることにより、教育者・保育者という専門的な職業について、実践を通して理解する。そして実習後は、実習について大学で振り返り、自分について見つめ直し、さらに教育者・保育者になるために必要な学びを明確にし、その後の授業に取り組んでいく。長期に渡る教育現場での実習は学生にとって多くの学びの場となり、大きな成長にもつながっている。

大学及び実習支援室と市町村や教育委員会との連携により、教育実習生を受け入れていただいている。小学校の実習先は、愛知県内の場合は県内私立大学で構成されている協議会を通して、学生の出身市町村教育委員会が母校以外の配属先を決定する。愛知県外の場合は、学生の母校（管轄教育委員会）に直接依頼をして実習を行う。幼稚園の実習先については、名古屋市の場合は小学校と同じ方法で決定されるが、他の市町村は県内養成校が加盟している協議会において調整され決定される。

[取り組み上の課題]

「学校教育コース」における小学校教諭一種免許状、及び幼稚園教諭一種免許状の取得率は非常に高いが、小学校教員就職率は小学校教員免許取得者のうちの25～30%程度であり、現状としては保育職を希望し、幼稚園や保育所、こども園等に就職する学生の方が多い。教職の魅力を伝えるとともに、小学校教員になることの不安を払拭し、小学校への就職者数を増やしていきたい。

<根拠となる資料・データ>

- ・資料3-2-1：岡崎女子大学 令和4年度 履修要項
- ・資料3-2-2：岡崎女子大学 令和4年度 シラバス
- ・資料3-2-3：岡崎女子大学 令和3年度 「子ども教育フォーラム」プログラム
- ・資料3-2-4：岡崎女子大学 令和3年度 「丘の上の音楽会」プログラム
- ・資料3-2-5：岡崎女子大学 令和3年度 「専門ゼミナールⅠ」配当表
- ・資料3-2-6：岡崎女子大学 令和3年度 学生による授業アンケート
- ・資料3-2-7：岡崎女子大学 令和3年度 卒業研究成績
- ・資料3-2-8：岡崎女子大学 令和3年度授業「地域貢献とボランティア」の「活動報告会」プログラム
- ・資料3-2-9：岡崎女子大学 令和3年度 進路状況一覧
- ・資料3-2-10：岡崎女子大学 令和3年度「長期フィールド実習の手引き」
- ・資料3-2-11：岡崎女子大学 令和3年度「教育実習Ⅱ（小）」実習校一覧
- ・資料3-2-12：岡崎女子大学 令和3年度「教育実習Ⅱ（幼）」実習園一覧
- ・資料3-2-13：岡崎女子大学 令和3年度「保育実習Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ」実習先一覧

Ⅲ. 総合評価

基準領域 1

教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みについて

1-1

教職課程の目的・目標を、DP 及び CP 等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学内外に周知している。また、育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。教職課程教育を通して育もうとする学修成果については、「卒業認定・学位授与の方針を踏まえて具体的に示すなど、可視化を図っている。今後、それらの方針を踏まえた教育目的・教育目標の学生へのさらなる周知と理解、また学修成果のそれぞれの項目の評価ポイントを向上させることが課題である。

1-2

教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築し、適切な役割分担を図っている。また、教職課程の在り方を恒常的に自己点検・評価するために「教職課程委員会」を設置している。教職課程の質的向上のために FD や SD の取り組みを展開し、教職課程に関わる情報公開を行っている。基本的な ICT 教育環境の適切な利用ができるようになっているが、今後さらなる整備が必要である。

基準領域 2

学生の確保・指導・キャリア支援について

2-1

教職課程で学んでほしい学生像について AP 等を踏まえて、学生の募集・ガイダンス・選考等を実施しており、CP 等を踏まえて、教職課程を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。また、「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れ、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。今後、学生が多様に学び、DP に示される資質・能力を有して卒業できるよう、適切な教職指導が行われることが課題である。

2-2

学生の教職に対する意欲や適性を把握し、学生のニーズの把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。また、学生の学修状況に応じたきめ細かな指導を行い、教職に就くための各種情報を適切に提供している。さらに、教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をし、キャリア教育を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。今後も学生の教職に対する意欲を維持・向上させるとともに、さらなる教職へのキャリア支援の充実が課題である。

基準領域 3

適切な教職課程カリキュラムについて

3-1

建学の精神を具現する教員養成を行っており、学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、適切な教職課程カリキュラムを編成している。また、教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、ICT 機器の

活用・アクティブ・ラーニングやグループワーク等、今日の学校教育に対応する教育上の工夫がなされている。教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を学生に明確に示し、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

教育実習を行う上では、履修条件を設定し、教育実習を実りあるものになるように指導を行うとともに、学修の記録を蓄積し、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」等の指導に活かしている。

今後も継続的に、学修成果の評価項目の見直し、評価基準の精緻化やその活用についての検討をしていく必要がある。また、ICT 機器の活用及び情報活用能力を育てる教育の充実を図るための環境整備も課題である。

3-2

取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を養成する機会を設定し、様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、本学独自の実習等）とその振り返りの機会を設けている。

また、地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の情報について学生が理解する機会を設けるとともに、大学や実習支援室と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。今後、定員充足を目指すとともに、小学校教員就職率を高めていくために、さらに教職の魅力を伝え、教職に就く不安を払拭する手立てを行うことが課題である。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書の作成に当たっては、令和4年5月に開催された岡崎女子大学教職課程委員会において、次の手順にて進めることを確認した。

- 第1プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会（全学組織）は、学長の意を受け、学内の教職課程の自己点検評価を行うことを組織決定するとともに、実施方針及び実施手順（自己点検評価の目標、実施組織、実施期間、実施対象を含む）の検討及びその決定を行う。
- 第2プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、本学の教職課程カリキュラムやシラバス内容を含む教育活動の法令由来事項について点検する。また、必要に応じて、データ等の取り扱いについて、学科及び関係機関への意見聴取を行う。
- 第3プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、教職課程の自己点検評価の進め方（観点や収集資料等を含む）を検討・協議を行う。
- 第4プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、第3プロセスでの協議を経た後、教職課程の自己点検評価の実施手順（自己点検評価の目標、実施組織、実施期間、実施対象を含む）について最終確認を行い、学科会議に報告する。
- 第5プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、定められた実施期間や報告提出締切期限を前提に、教職協働を基本とした役割分担のもと、対象項目の点検評価を行い、その結果を集約する。
- 第6プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、集約した結果を点検し、学科への報告・協議を経て、大学としての全体評価を加え「教職課程自己点検評価書」を作成、完成させる。その確定にあたっては、学長への報告・協議を行い、承認を得た上で情報を公表する。
- 第7プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、自己点検評価活動によって確認した課題を、大学全体の事業計画の一部として改善・向上に向け、実行計画を策定し、2023年度以降のSeikoGPLANに加え、全学連携のもと改善・向上活動を進める。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 清光学園					
大学・学部名 岡崎女子大学・子ども教育学部					
学科・コース名（必要な場合） 子ども教育学科					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数など					
昨年度卒業者数			91名		
① ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）			86名		
② ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）			88名		
③ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）			34名		
④のうち、正規採用者数			27名		
のうち、臨時的任用者数			3名		
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	8名	3名	4名	1名	1名
相談員・支援員など専門職員数			3名		